

■中国：火力発電、設備過剰問題が深刻に

2016年5月20日付の業界紙によると、格付け会社フィッチは最新の報告書において、中国における石炭火力発電所の設備過剰問題は2016年から2017年にかけて一層深刻化すると予測した。2015年の1年間で火力発電設備は約7,000万kW増加し、2016年1～4月には約2,200万kW分の発電所が新規運開した。この状況は、中央政府が力を入れている新エネの優先開発政策に反するものであるが、最近の石炭価格の下落により石炭火力開発への投資は2014年対前年比13%、2015年に同22%増加した。中国電力企業連合会の専門家は、「石炭火力発電所は赤字に陥るおそれがある」という見方を示している。